

## 平成19年度「目標チャレンジ」表彰課所

### ■選定・評価の考え方

- ・目標チャレンジに積極的に取り組み、顕著な成果を収めた課所を知事表彰する。
- ・①目標設定の適切性、②目標達成に向けた組織(職員)の努力、③目標達成度(成果)の観点で評価

### ■審査の流れ

- ・各部局から1～3課所を推薦
- ・推薦された課所から表彰候補案を選定し、政策幹部会議メンバーにより審査

### ■表彰候補

優秀賞：4，努力賞：2，継続努力賞：0（<sup>⑱</sup>同2，同4，同1<sup>⑰</sup>：同2，同3，同2）

### 【優秀賞】郵便料金の削減（総務部総務課）

目標数値等	実績
対前年度比15%以上の削減 (削減額：1,000万円)	対前年度比約20%削減 (削減額：12,377千円) ※ <sup>⑲</sup> 年度郵便発送金額：44,934千円 (平成20年2月末) <sup>⑱</sup> 年度郵便発送金額：57,311千円 (平成19年2月末)
(表彰理由) ○郵便料金の削減は、職員の日々の心がけ次第で大きくかわる。担当職員が日々の業務の中で、地道にコツコツと各課に対し、趣旨を徹底させ目標を大きく上回る成果を収めた。 (削減単価は数十円単位と他に比べて極小なもの積み上げ) ○特に、1日に千数百件もある膨大な文書をきちんとチェック(直接指導：20～30件/日)し、各課への注意を喚起し、職員の郵便コストへの意識改革の徹底を図った努力は、行革を全庁一丸となって進める中でも顕著な取り組みである。	

### 【優秀賞】旧道移管の推進（道路維持課）

目標数値等	実績
旧道移管延長：20km	約33km(平成20年3月11日現在) ※過去3年間の平均旧道移管延長7km
(表彰理由) ○今後とも多くの道路の維持管理はもとより、新たな整備を行っていく必要がある中で、旧道の市町村への移管は急務の課題。 ○本庁・土木事務所が一丸となって、新たな推進体制に基づき、それぞれが適切な役割分担のもと業務を計画的かつ着実に推進した。 ○特に、部の幹部職員自らが先頭に立って市町村へ出向き趣旨説明を徹底すると共に、土木事務所等との連携を強化しながら、効果的・効率的な移管推進に向け強力に取り組んだ点は高く評価できる。 ○その上、維持管理コストを1.5億円程度縮減(1km当維持管理費約500万円/年)できる見込みであることも厳しい県財政を考慮すると大きな貢献である。	

**【優秀賞】 借り入れ利子の縮減及び資金運用益の確保（会計第一課）**

目 標 数 値 等	実 績
①一時借入金支払利子4,800万円以内	①約3,300万円（H20年2月末現在） ※年度末見込：4,600万円
②資金運用益7,300万円以上	②約18,600万円（H20年2月末現在） ※年度末見込：20,000万円
<p>（表彰理由）</p> <p>○一時借入金利子の抑制や資金運用益の確保は、厳しい財政状況に直接効果がある重要な取り組み。</p> <p>○資金収支の進行管理に当たっては、各課との細部にわたる協議・調整を連日行なうと共に、収支傾向の分析、1円以上の全ての支払いを把握できる県費支払把握システムの活用（本年度改良）による正確な支払額の把握といった徹底した取り組みによりはじめてなし得るもの。</p> <p>○一連の精細な資金管理により、一時借入金支払利子を年度当初見込（7,218万円）の2/3に縮減するとともに、数億円単位の留保金額（従来は最低50億円以上）できめ細かに預金運用（⑱33回→⑲43回）を行い、多くの運用益を確保することになった今回の取り組みは目標を大きく上回るもので高く評価できる。</p> <p>※本年度は、住宅公社支援対策等により前年度（⑱180万）比約40倍の7,218万円の一時借入金支払い利子が見込まれた。</p> <p>※本年度は、預金金利水準：前年度比2倍、年間平均資金残高：前年度比6割減（⑱459億→⑲201億）の中で前年度比2倍以上の運用益を確保。</p>	

**【優秀賞】「消費者に喜んで食べてもらえるカンショ」を出荷するための食味安定方法の確立（行方地域農業改良普及センター）**

目 標 数 値 等	実 績
<p>○べにまさりの食味安定化</p> <p>①ウイルスフリー系統「茨城128」の作付け割合：50%</p> <p>②べにまさり栽培面積60㍍<sup>2</sup></p> <p>○匠こがねの食味安定化</p> <p>③生芋デンプン含量に応じた出荷1.7㍍<sup>2</sup>・3.4㍍<sup>2</sup></p> <p>○ベニアズマの食味安定化</p> <p>④生芋デンプン含量に応じた年内焼き芋向け出荷20㍍<sup>2</sup></p>	<p>①作付け割合：50% [⑱35.8%]</p> <p>②栽培面積：60㍍<sup>2</sup> [⑱36.3㍍<sup>2</sup>]</p> <p>③出荷：1.7㍍<sup>2</sup>・3.4㍍<sup>2</sup> [⑱1.7㍍<sup>2</sup>・2.8㍍<sup>2</sup>]</p> <p>④出荷：20㍍<sup>2</sup> [⑱0㍍<sup>2</sup>]</p> <p>※「食味の安定化」は、消費者の信頼を得るための必須の技術的課題</p>
<p>（表彰理由）</p> <p>○職員がチームを組んでデンプン含量の測定、現地実証試験や農家への講習会の開催、巡回指導など、地元農家への粘り強い地道な活動を重ね、目標とした「べにまさり」、「茨城128」、「匠こがね」の栽培・作付け面積を拡大させ、農家の所得向上（所得500万円以上農家：⑲12→⑲37戸）、経営改善を図った点は高く評価できる。</p> <p>○特に、従来の普及活動が、主に収量や外観品質を向上させる生産の視点からであったが、本件は消費されるカンショの内部品質（デンプン含量）向上に視点をあてた、まさに消費者ニーズに応える普及活動であり、消費者のベストパートナーとなる茨城農業改革をまさしく実践したものである。</p> <p>○また、全国で初めて芋の内部品質に着眼した宣伝を行ない、スーパーマーケット内の焼き芋販売を成功（実証成果を踏まえた小冊子「焼き芋のはなし」を配付）させ、当該産地産カンショを用いた焼き芋販売に取り組む量販店が全国500店舗に大幅に拡大（⑱約100店舗）したことは、大きな成果として注目される。</p>	

**【努力賞】 いばらきイメージアップ大賞にかかる全国レベルでの  
各種メディア報道・掲載数のアップ（地域計画課）**

目 標 数 値 等	実 績
全国レベルでの各種メディア報道・掲載数：10件(宣伝費用効果：1,000万円)	21件 (宣伝費用効果推計：約1億2,000万円) 《大手広告代理店算出》 ※事業費985千円の約114倍
<p>(表彰理由)</p> <p>○グループ員が結束し、広報マンとしての自覚のもと、昼夜をとわず、きめ細かく、精力的に広報宣伝業務（訪問依頼，FAX，電話等による売り込み徹底等）に取り組み，これまでの県事業としては，例を見ない34社の報道を誘致した。</p> <p>○「茨城」を大きく全国発信させた今回の取り組みは，全職員の模範となり，一層の本県のイメージアップを図っていく上でも高く評価できる。</p> <p>○事業費の100倍以上の効果を発揮させたことは特筆される。</p>	

**【努力賞】 監視データ収集、光化学スモッグ緊急発令（解除）、学校等への周知  
時間を大幅短縮（平均12分以内）（環境対策課）**

目 標 数 値 等	実 績
光化学スモッグ緊急発令（解除）、学校等への周知に至るまでの時間を平均12分以内とする。	緊急時発令の発信完了：平均11分を達成 (情報収集：5分、発令判断：4分、学校周知：2分)  ※従来40分(情報収集：8分、発令判断10分、学校周知：9分、その他：13分) ※平成19年度：予報：22回 注意報：15回 被害者数：0人
<p>(表彰理由)</p> <p>○新たな監視・発令システムの導入を契機に、担当グループの枠を越え、関係職員（事務・技術共）全てが発令判断、情報提供を行えるようになった。</p> <p>○特に、被害発生防止に迅速的確に対応できるよう、監視データの解釈や気象情報の利活用などについてグループ員同士で全体研修や個別実践研修などを随時行なうなど、日々の業務改善に努力を重ねた点は高く評価できる。</p> <p>○この結果、本年度光化学スモッグ予報、注意報が計37回発令されたにもかかわらず、被害者は0人であった。(19年度：22回発令、9人被害)</p>	